

定置網からクロマグロを逃がすタモ網作製

現在、クロマグロは国際的な資源管理が行われており漁獲量が制限されていることから、静岡県定置漁業協会（以下、定置協会）は、県の「水産イノベーション対策事業」を活用して、定置網に迷入したクロマグロを効率的に網外に逃がす手法の開発を行いました。

1月14日に伊東魚市場において、定置網に迷入したクロマグロ幼魚を放流するタモ網の作製会が行われました。作製するタモ網は、「たもすくい網漁業」で用いられている、軽くて水中抵抗が少ないタモ網をベースとした新しいタモ網です。作製会には県内定置網の乗組員約30名が参加しました。参加者は講師として招聘した元たもすくい網漁師の濱野氏から、網の編み方等について手ほどきを受けながら熱心にタモ網を作製していました（写真1）。

その後、伊豆東岸の大型定置網（富戸漁場）では、早速完成したタモ網を用いて定置網に迷入したクロマグロ幼魚の放流を行いました（写真2）。この時に迷入したクロマグロ幼魚は少なかったのですが、作製したタモ網は従来のタモ網に比べて軽くて扱いやすいとのことで、今後、クロマグロ幼魚の迷入が多くなる時期はこのタモ網が放流作業の大きな助けになることが期待されます。

（鈴木勇己）



写真1 網作製の手ほどきを受ける参加者



写真2 タモ網を構える乗組員